



創刊号
 松商学園短期大学
 松本市新村2117-3
 TEL 0263-47-6200
 印刷 ミヤサカ印刷

創刊に寄せて

同窓会長 小澤 一彦



同窓の皆様には、同窓会の
 ためにあるいは、大学のため
 に常に変わらざるご支援・ご
 協力を賜り有難く又、感謝に
 たえない所であります。昨年
 十一月六日大学も創立三十周
 年記念を皆様方のお力添え
 にて無事に、りっぱに終わり
 ます。

同窓の皆様には、同窓会の
 ためにあるいは、大学のため
 に常に変わらざるご支援・ご
 協力を賜り有難く又、感謝に
 たえない所であります。昨年
 十一月六日大学も創立三十周
 年記念を皆様方のお力添え
 にて無事に、りっぱに終わり
 ます。

又、同窓会も昭和三十三年
 四月、会の創立を見、以来二
 十六年目になり、内外共に充
 実致し、同窓生約五、〇〇〇
 名を数える多きに至ってまい
 りました。同窓会もこの三十
 周年記念事業の一端として終
 身会員制度を新設致し、会費
 一〇、〇〇〇円と特別会費二、
 〇〇〇円以上の募金を行い幸
 いに多くの方々の協賛を得ま
 して、一部で五六〇名余、二
 部で五五〇名余で、合計一、
 一五〇万円と短期大学専任教
 職員の方々にも協力を賜り総
 計一、二〇〇万円の募金を見
 る事ができました。この紙上
 をお借り致して、関係各位の

方々に厚くお礼申し上げる次
 第であります。
 この募金を元に大学校旗と
 グランドピアノを、三十周年
 記念として、寄贈出来まし
 事も、付けくわえて報告させ
 て戴きます。尚、同窓会の大
 きな記念事業として、同窓会
 名簿の発行を行い、一年有余
 の時間と多くの幹事、短大職
 員の方々にも大変お世話を掛
 けましたが、りっぱな名簿が
 出来上り、多くの同窓生との
 縦・横の連絡が出来るよう
 になりました。この名簿を大い
 に活用して戴き、役立てて戴
 ければ幸いです。募金の残金
 八〇〇万円は将来の同窓会会
 館建設資金の一部として積立
 てさせて戴く考えであります。
 学園側でも記念事業として、
 校歌を作成され、大学にふさ
 わしい格調高い、同窓生にも
 親しめる校歌が出来上りまし
 た。当大学の三十年の歴史を
 集録した三十年記念誌も近
 々発行される予定です。
 このような大きな節目に会

員間の強固な連帯意識と団結
 共栄を図って行くための手段
 として会報の発行を致す事
 になりました。あくまでも同窓
 の皆様方との連絡、消息、大
 学の情報、各支部からのたよ
 りの場として、又、後輩の社
 会への窓口として、大切に育
 てて行きたいものです。同窓
 会も創立以来ただ二十六年過
 ぎ去ってしまった年月を考え
 ると、大変残念でなりません。
 今後は各地域にある支部のよ
 り一層の充実を図りながら、
 女子の同窓生も数多くなって
 まいりましたので、女子の意
 見を多く汲み入れた同窓会に
 脱皮して行きたいものです。
 最後に母校の大切さを考え
 る、忘れない同窓生としての
 成長を希むものです。



念願の校歌制定

「雲わきあがる……」で始まる学生歌はあったが、校歌はなかった。先輩の多くはこの学生歌をことあるごとに歌い親しんできた。しかし、母校が県の森から梓の森に全面移転してからは、学生歌の詞がそぐわなくなった。そこで、創立三十周年記念事業の一環として、校歌制定の声があがった。幸いにも作詞者と作曲者に恵まれて、念願の校歌ができた。作詞は本学学長松崎一先生、作曲は才能教育研究会会長鈴木鎮一先生である。

ここに詞の心の一端を紹介して、会員の皆さんに愛唱してもらいたい。一番は学園の校是とスクールカラーを織込み、二番は大学の象徴・真理と理想をメインに学生どうしの、また教師との熱心な語らいを期待し、三番は短大時代が悔いなく愛惜の情をもって想い起こせるような生活を送ってほしい、との心がこめられている。

(倉科記)

松商学園短期大学校歌

歌詞 松崎一
曲 鈴木鎮一

一、筑野の 空に 希望は躍り 立ち 自らの心と 育まん この学園に 集い われり 学友	二、みずす 緑なす 理想の灯 ひたすらに 歩多く 求め 道まん あつ 語り	三、アルペンの 春の 風めし いとおしく 若き日の 夢の雲に 想い 後には またと 分けられ
--	---	---

一、新学長を迎えて

昨年四月、本学七代目の学長として、前信大教養部長松崎一先生をお迎えした。先生は新任早々、創立三十周年記念式典を挙行、校歌の作詞、そして今年十二月完成を目ざして校舎増築を推進されている。先生は本学発展のために情熱を傾けておられるので、大いに期待したい。

わが母校・短大通信

— 昭和58年度 —

学生数は第一部三九三名(男一〇九名、女二八四名)、第二部三九名(男三二名、女八名)である。

三、就職戦線を勝ちぬく

就職状況がなお厳しいなかであって、本学は就職部長を中心とした学内の総力と先輩諸氏の協力によって、好調であった。昨年度の場合、九割近くが十一月中旬に内定した。近年の傾向は男子営業、女子一般事務職にせよ、本学商学科としての基本的知識に加えて、コンピュータ周辺技術を習得しているかがポイントとなっている。

四、最新鋭コンピュータの導入

今年一月、現在の最先端テクノロジを駆使した汎用コンピュータM二二〇Dが導入された。これは本学への志願者が情報管理コースに集中していることもあってコンピュータ教育の充実を目ざしている。今年度後期にはパソコン、漢字プリンタ、日本語ワープロ等の補充購入計画がある。

二、志願者数の激増
第一部は入学定員一五〇名に対して、昨年度は三〇七名、今年度は三〇八名の志願者があった。これに対して昨年度とも二〇三名の合格者を出した。第二部は入学定員八〇名に対して、昨年度は三〇名、今年度は一九名の志願者で風前の燈の感がある。今年三月に第一部二〇三名、第二部二四名の卒業生を送って、現在

五、ゼミ合宿の制度化

昨年度はゼミ合宿が制度化されたこともあって、全ゼミが県内各地で合宿をした。紹介すると、前田―原村、奈良―白馬、中垣―神城、石井―木曾福島、倉科―飯森、福井―中軽井沢、小林―白馬、草野―原村、清水―軽井沢であった。今年度からは卒業論文の提出が義務づけられたので一層厳しいゼミ合宿となるであろう。

六、いま一步のクラブ活動

昨年七月二十七日から四日間、全国私立短大体育大会が東京で開催された。本学は五種目すべてに出場し、男子バレーボール、バドミントン男子ダブルス、卓球団体・男子ダブルスが各三位であった。今年の大会は七月三十日から四日間、札幌市で開催、本学も全種目に出場予定である。健闘を祈りたい。(倉科記)



式典盛大に挙行

本学は昭和二十八年に短大として産声をあげてから昨年で三十年を迎え秋冷な候である昭和五十八年十一月五、六日の両日創立三十周年記念式典が挙行された。第一日目は、在学生全員が参加し式典、及び、記念講演会が行われた。二日目は、多くの来賓、及び、同窓生を迎え盛大な式典を行い引きつづき祝賀パーティが行われた。

創立30周年を終えて

この三十年間には五千人に近い同窓生が本学を巣立ち県内はもとより全国各地で活躍し実社会に貢献している。このように益々

発展する本学を我々は喜びと誇りにし本学を支えてくれて来た同窓会員に感謝し、この創立三十周年を祝福し、この大きな節目にあたり本学発展のための努力を誓い決意を新

たにした。



同窓会の記念事業

同窓会が企画した三十周年記念事業は同窓会名簿の発行、校旗の作成、ピアノの寄贈である。これらの行事計画は昭和五十七年八月七日行われた同窓会総会において決定された。常任幹事会は毎月開催し行事遂行にあたり方全の策を講じた。同窓会名簿の発行は各卒業期の幹事に、その卒業期の整理を依頼し協力を得た。この膨大な資料の編集は本学職員との全面的な協力を得て昭和五十九年一月に発刊した。発行した千五百部は同窓会終身会員、及び、在学生、教職員等に配布され残部は今後の終身入会

者に配布することとした。校旗は総刺繍高級な豪華品であり縦七九cm、幅一一八cmで旗地は本絹糸西陣織で校章の刺繍は本金糸を使用しており本学三十年の伝統を象徴するにふさわしいものである。ピアノはヤマハ製グランドピアノであり式典、及び祝賀会において、その音色が披露された。

三十周年記念事業は同窓会以外では大学及び、後援会が担当した行事がある。大学は三十年誌の編さん、及び、校歌の制定であり前者は昭和五十九年中に発行予定であり校歌は、すでに学友に歌唱されている。後援会から寄贈されたミーティング・ロビーは、すでに、その空間を有意義に利用している。これらの記念事業は法人、短大、同窓会、後援会、校友会より委員が銜衡され遂行された。次に同窓会関係の委員を上げておく。

- 創立三十周年記念事業実行委員・小沢同窓会長
- 総務委員・洞沢監事
- 記念誌編纂委員・金子監事
- 校歌制定委員・伊沢副幹事長
- 募金委員・大野田副会長・望月幹事長
- 同窓会名簿作成委員・荻原

募金目標の達成

三十周年記念事業を推進するための資金調達については昭和五十七年の総会の決定に基づいて創立三十周年記念募金趣意書が作成され募金活動が開始された。その内容は同窓会会則に基づき終身会費一万円及び、特別会費二千元以上を納入してもらうこととした。昭和五十八年度卒業生より全員に特別会員になってもらうためにも後輩の模範となるよう多くの先輩の賛同を期待したわけである。この事業において終身会員として入会した会員数は七九五名であり特別会費を合わせ一、四七八万円の資金が調達された。

本学が新村の新しいキャンパスへ移転を決定したのは昭和五十一年九月であるが、この移転に伴う資金の不足額を同窓会が集めることにした。

学校債発行趣意書が作成され各卒業期の幹事が中心となり募集が開始された。総額三、五八〇万円が調達され五年後に五%の金利とともに全額償還した。この時の同窓会活動が無かつたなら今日このように躍進した本学も、又無かつたであろう。今回行われた記念事業とともに短大三十年の歴史のなかで深く記憶されるべき大事業であり今後ともわが短大発展のため多くの事業を先輩諸公の指導のもとに遂行しようではないか。

(石井記)



昭和59年度

松商学園短期大学同窓会総会並びに懇親会御案内

日時 昭和59年7月21日(土)
場所 松本駅前「グリーンホテル」
時間 総会 PM 5:00
懇親会 PM 6:30(会費3,000円)

当日は、例年母校の教職員も多数出席されますので会員同志お誘いのうえご出席下さい。

事務局便り

昭和五十九年度同窓会総会開催のお知らせ
母校の見学旁々、同期生お誘い合せて多数ご出席下さい。

「会員名簿」の配布
創立三十周年を記念して発行しました名簿を配布します。

「終身会員」加入のお勧め
同期会等において未だ終身会員として加入されていない方がありましたら、是非加入をお勧め下さい。

同窓会報の投稿歓迎
今後、年一回発行の会報に掲載する会員よりの投稿を期待します。

「京浜支部」の支部長交代
さきの、会員名簿に掲載の支部長が次のように交代しましたので、訂正下さい。

旧・都筑昭夫氏(一部二期)
新・福島英夫氏(二期四期)

〒一四四 東京都大田区新蒲田一―二一八

電話 ○三―七三八―二八六

五十九年度母校行事予定

昭和58年度同窓会会務報告(自58/7~至59/6)

Table with 5 columns: 年月日, 事項, 場所, 出席, 備考. Contains detailed activity reports for the 58th year.

「大学祭」九月二十一日(金)
「二部主催ダンスパーティー」
60年度新入生募集日程
第一部第一期推薦受付

編集

後記

県の学舎が新村の地に移って七年が経つ。昨年は創立三十周年を迎えた。これを機に、同窓会員の連帯をより深めた... 創刊号は母校に勤務する会...